

— 洗たくにおける浸漬の効果について —

花王生活科学研 ○佐藤孝逸 重弘文子 坂田元三

目的 家庭洗たくにおいて、浸漬過程をとり入れた場合の洗たく性能について検討した。

方法 洗剤：J I S - K 337 / 指標洗剤、指標洗剤+酵素、指標洗剤+酸素系漂白剤、
汚染布：天然えり垢布、油化協式汚染布、人工皮脂污垢汚染布、泥汚染布、しみ汚染布等、
白布：木綿金巾3号布、ポリエステルタフタ、

洗浄方法：ターボメータを用い、指標洗剤の標準濃度(2/33%)、20℃、4°D H、
10分洗浄を標準条件とし、これに対し洗剤濃度を $\frac{1}{2}$ ~4倍と変え、1時間浸漬後洗浄し
たときの洗浄力をみた。浸漬中攪拌を加えた場合について、また洗剤に酵素あるいは漂白
剤を添加した場合についてもみた。

評価方法：洗浄力…人工汚染布については特定波長における反射率より洗浄率を求め、天
然えり垢布については視感判定により洗浄率を求め、いずれも標準条件に対する相対洗浄
力として表わした。再汚染性…洗浄浴に入れた白布の汚染性を特定波長の反射率によつて
求めた。蛍光剤染着性…蛍光強度測定によつた。

- 結果
1. 同一洗剤濃度では浸漬による効果は認められるもののその差は比較的小さい。
 2. 浸漬中に攪拌を加えることにより洗浄効果は大きくなる。
 3. 洗剤濃度が高い程洗浄力が優れ、再汚染性も少ない。
 4. 洗剤濃度 $\frac{1}{2}$ 倍では全体の洗浄力が劣り、浸漬中攪拌を加えても効果は低い。
 5. たんぱく質分解酵素、酸素系漂白剤を洗剤に添加することにより、浸漬洗たくで特定のしみ汚れに高い効果がみられる。